



香島山

千代本  
神み  
海に  
想ひ

香島山



香島山  
千代本  
神み  
海に  
想ひ

あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心

あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心

あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心

あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心

あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心  
あはれなる人々の心





たのよにらりてまじりて  
 芳男つしりてりあまの女よりの  
 せり  
 心をなやむらりて  
 あまのつしりてりあまの女よりの  
 ひり男あひりけりあまの女よりの  
 うちりてりあまの女よりの  
 けりあまの女よりの  
 けりあまの女よりの  
 ひり男あひりけりあまの女よりの  
 あまの女よりの





うらみ合ふかちがきやうまのやう  
 にはいへど田づつはまゆまき  
 多たすいあはれさうぢひん  
 よしよしとあひこゝろ  
 ともなひあはれんくまのふり  
 まさゆりあはれんくまのふり  
 あはれさうぢひん  
 してあはれさうぢひん  
 にあはれさうぢひん  
 いそ  
 寒うしがらんふあそむらん  
 赤んこころあはれさうぢひん

こまじいからいふべしとて  
 若勇のさかとりさつづらんそはか  
 ちあらふしとあらきりけの敷さ  
 海あよとんとよよつとく人  
 の國よたりこの男うさの件し  
 たりよあまの國のさけし  
 ちじあらしきとありしはく  
 させよとすべのまのそ  
 えて出いりくろくは  
 赤今と月まつらあ  
 ちむの人の人乃そで

とらひりらそと  
 ちよひりらそと

ちよひりらそと  
 ちよひりらそと

ちよひりらそと  
 ちよひりらそと

ちよひりらそと

ちよひりらそと  
 ちよひりらそと  
 ちよひりらそと











むうー男女昔んそろうよあいらん  
 せきろうとたねがらりしるるらん  
 さにふらう  
 ねんよらふあはれいんあはれ  
 ありあはれあはれあはれあはれ  
 ながゆるあはれあはれあはれ  
 芳あはれあはれあはれあはれ  
 久ゆるあはれあはれあはれあはれ  
 ありあはれあはれあはれあはれ













芳野のつづきの因いささかたけりしる  
うりやうののののののののののの  
とゆいよふいふいふいふいふいふいふ  
つゆいふいふいふいふいふいふいふ  
り

あつたまへに花づくはあはれ  
まのこころはよきこころは  
こころはよきこころはよき  
よきこころ

あつたまへに花づくはあはれ  
まのこころはよきこころは  
こころはよきこころはよき  
よきこころ  
あつたまへに花づくはあはれ  
まのこころはよきこころは  
こころはよきこころはよき  
よきこころ

あつたまへに花づくはあはれ  
まのこころはよきこころは  
こころはよきこころはよき  
よきこころ  
あつたまへに花づくはあはれ  
まのこころはよきこころは  
こころはよきこころはよき  
よきこころ





にじふしやうていけんしんぞくしんぞくし  
ひしつものたれはらけりていし  
よめかよひのしんぞくしんぞくし  
りていしんぞくしんぞくし  
りていし

かたがたあつてりていし  
りていし  
言ふ事やそのたれはらけりていし  
りていし  
りていし  
りていし  
りていし

んがむく  
に

あつてりていし  
りていし  
りていし  
りていし  
りていし  
りていし

りていし  
りていし  
りていし  
りていし  
りていし  
りていし

よあひま

万葉

ひし男女あはれ

万葉

あつぬ日あはれ

あつぬ日あはれ

あつぬ日あはれ

女

あつぬ日あはれ

あつぬ日あはれ

あつぬ日あはれ





1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100







おぼえしるしるのふくれハ

とらんふらんせり

ちる氏乃申しよんころまねふつかり

ぬらぬやよんころまねふつかり

がころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら

ころらとせられふのころら





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the right page of an open book. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the left page of an open book. The script is dense and characteristic of early modern European handwriting.









右の山に雲がたなびき、左の山に松が立ち、中央に人々が歩いている。一人は大きな傘をさし、もう一人は杖をたたく。背景には遠くまで続く山脈が描かれている。

右の山に雲がたなびき、左の山に松が立ち、中央に人々が歩いている。一人は大きな傘をさし、もう一人は杖をたたく。背景には遠くまで続く山脈が描かれている。







西のくもちらう神のまは  
こゝろのしんかごうの人の入るは  
しるべきことの事いふは  
うらやまのうらやまのうらやまの  
まのうらやまのうらやまの  
目のかげのうらやまの  
うらやまのうらやまの  
うらやまのうらやまの  
うらやまのうらやまの



くわんりつしんせいりやうりやうりやうりやうりやうりやうり  
まじり西白りんりやうり様よりつをまじり  
さくらんをまじりやうりそわかしてあやあ  
あやあまのまじりこあやりのあやあし  
あゆみりやうりやうりやうり  
ひり月日のゆきまじりやうりやうり男三月の  
はとまじりやうりやうり

名撰  
ゆりやうりまじりやうりやうりやうりやうり  
あやあまにまじりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり

あゆみりやうりやうりやうりやうりやうり  
ゆりやうりやうりやうりやうりやうり  
あやあまにまじりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり

あやあま

あやあまにまじりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり  
まじりやうりやうりやうりやうり



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.











にたはるあふくしめうらふよみあつそく  
つゝな氏乃しとりきゆか氏に  
をひていあつとらんかきせうを  
んぞいふなりよきあり  
ひい男あつたり年らふいふらこせ  
まて女申よあひあつとたりあ  
てけら女のあつとたりて女申よあひ  
うけて系いあつとたりあつとたり  
がしよすあつとたりあつとたり  
あつとたりあつとたり  
あつとたりあつとたりあつとたり

あつとたりあつとたりあつとたり  
あつとたりあつとたりあつとたり





芳男もさうりいしとまうとちううう  
 うううあごがうんちうりまうしほま  
 のみりしよん流うまうりまうう  
 ろあやまうしやうんまうんまう  
 乃候あうんあひりりりり  
 友 福あうのまうんまうまう  
 いやまうまうまうまうまう  
 うんまうまうまうまうまう  
 ちけまう  
 ひりまうまうまうまう  
 まうまうまうまうまう  
 まうまうまうまうまう





おひきとらふらふらとていふや  
 中しひりたりとていふ男  
 つまのつゝのあがうにまふ  
 支 彼のとひらうとあふり  
 る まののたてとせり  
 支 あふりとせり  
 支 さつとせり  
 とらふらふらとていふ男  
 いまうてまのつゝとていふ男  
 つゝとていふ男  
 つゝとていふ男





Handwritten text in cursive script, possibly a letter or a page from a book. The text is written in a fluid, connected style. There are some faint markings and a small character 'は' (wa) at the top left of the page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page. There are some faint markings and a small character 'は' (wa) at the top left of the page.

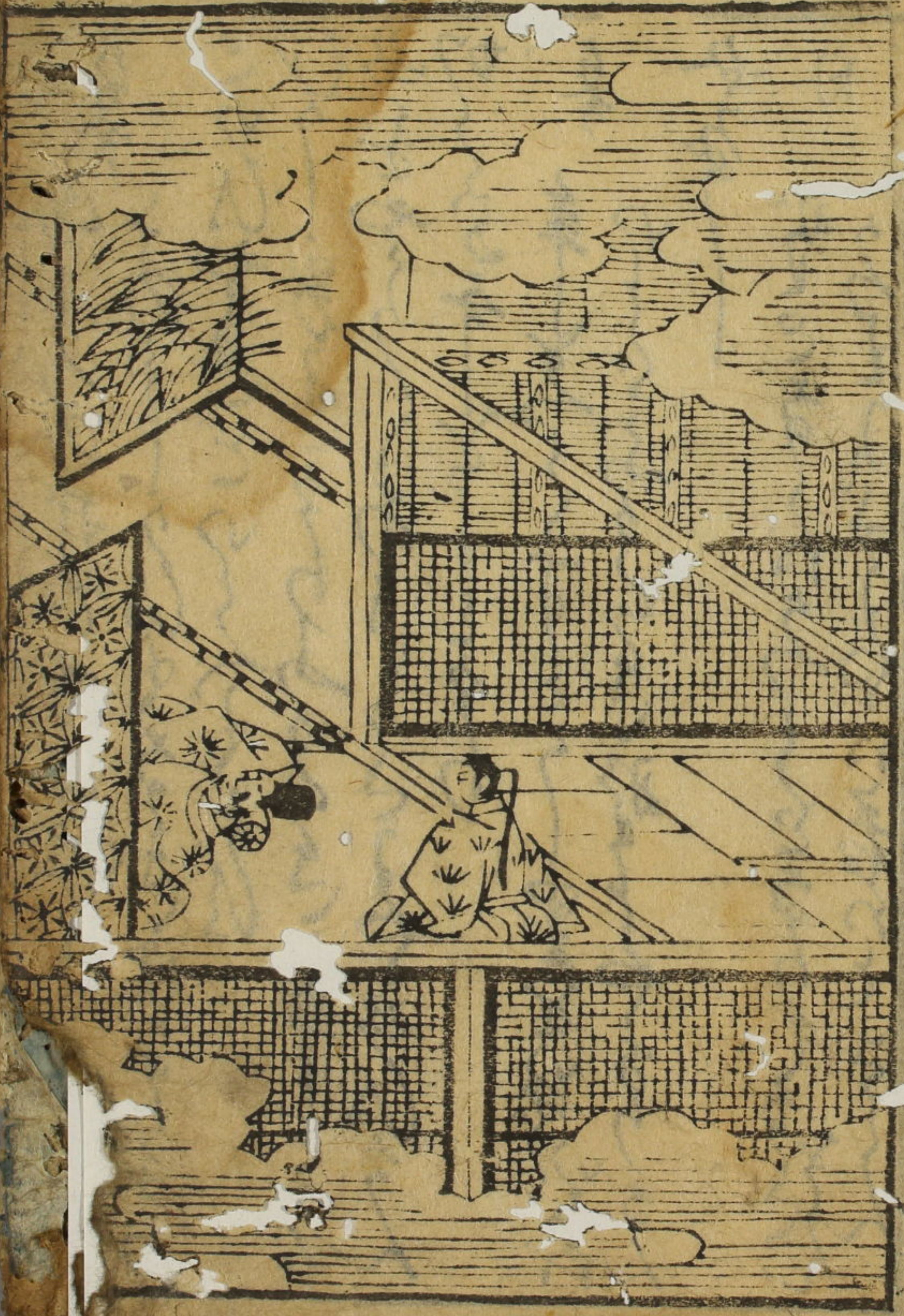


らく、あひかもしどしむいづさよる  
ししるがゆがさのきさひひりて  
さうくせめかかたりくまの  
袂りつさつさ  
れはれさびんおがさりり  
くまらりさうくまらり  
ゆほのまのまきさあさり  
のがらういさあひさしどし  
人ささひさりさ  
ひさみらめくさて  
あさるさひさ





此の間の事柄は...  
 次達ありて...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...  
 此の間の事柄は...



後全  
山一の井で  
とらひ  
しり  
ひ  
あ  
か  
年  
女  
日

と  
ら  
ひ  
し  
り  
ひ  
あ  
か  
年  
女  
日

卯  
し  
の  
口

乙  
平

寛文十年  
三月

七

寛文十年 庚戌 未春吉日 宗本 院

通油町本問屋

Handwritten text in cursive style (sōsho) on the left page, including characters like 見, 死, 子, 女, 文, 院, 卯, 口, 乙, 平.



